



(公財) かながわ考古学財団

設立 30 周年記念イベント上映会

入場料無料

私たちの足元には

想像もできないものが埋まっている。



ドキュメンタリー映画

掘る女

縄文人の落とし物



Welcome to the
Jomon period !!



松本貴子監督 最新作 (『水の花火 山口小夜子』『草間彌生 わたし大好き』)

出演：大竹幸恵、八木綾枝、伊沢加奈子ほか
2022年/日本/111分/カラー/DCP 監督：松本貴子 (『水の花火 山口小夜子』『草間彌生 わたし大好き』) デレジータ：沖田昌子 撮影：門脇紗子 音楽：川口康之 (『草間彌生 わたし大好き』)
音楽プロデュース：井田栄司 編集：野宮健治、タトウ文字・イラストレーション、スタジオネコ アニメーション：花原真希子、岸本耶 考古学監修：尾 様、オンライン編集：石原史希 字幕効果：池谷：高木創
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)独立行政法人日本芸術文化振興会、宣伝協力：公益社団法人日本文化財保護協会
製作・配給：イロプロダクション 配給協力：宣伝：プレイタイム ©2022 イロプロダクション <http://horumans.com/> @horumans2022

縄文遺跡の発掘調査に携わる女性たちを、3年間にわたって記録したドキュメンタリー



夢中になれることが、人生をこんなに豊かにする

土臭くてラブリーな発掘ドキュメンタリー



2021年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録され、再評価が進む縄文文化。

今から約1万6千年～3千年前に作られた奇妙なデザインの土器や、どこか可愛げのある造形の土偶の謎は、多くの現代人を惹き付けてやまない。

しかし、本作が光を当てるのは、その「発掘」に魅せられた女性たち。

『草間彌生 わたし大好き』『氷の花火 山口小夜子』に続く松本貴子監督の最新作は、縄文遺跡の発掘調査に携わる女性たちを3年間にわたって記録したドキュメンタリー。

男仕事と思われがちな遺跡発掘で、汗だくになりながらスコップを地面に這わせる彼女たちが、あなたを縄文時代へと誘う。

ナレーションは「銀河鉄道999」のメーテル役で知られる池田昌子が担当。



四六時中、土に向かい、俯いて作業している、彼女たちそれぞれの人生が素敵に輝いていました。茶色い土ばかりがうつるけど、とてもいい映画です。

樋口真嗣 (映画監督「シン・ウルトラマン」)

発掘とはさまざまな経験の中から、ある程度の「あたり」を見つけ見えない事は頭の中で探り、その確証を得るために掘るものだ。なんだか大人の恋にも似てるなって思う。発掘している女性達の顔は昔から好きだった人の心を掴んだ時の歓びの笑顔のよう。違うのはそのドレスが汗だくの作業服って事だけだ。

春風亭昇太 (落語家)



この土器がみられるよ!



最初はみんな宝探し…。でも、30年掘り続けると「3500年前の縄文人が、すぐそこに居る」と実感できるほどのシンクロナ率! 驚いた! 羨ましい! そして何しろ楽しそう! 世界中の人にに見て欲しい!!

片桐仁 (芸人・俳優・彫刻家)



掘る女たち。何かに夢中になってる人独特の、地味で、平和的で、いつもクスクス笑ってて、とても美しいです。

光浦靖子 (タレント)



ああ、本当に良い映画が産まれたなと思った。きっと土偶も土器も、縄文人も喜んでいるだろう。そうそう、こうやって私ら(土偶とか土器)は、作業員のおばちゃんたち(遺物のお産婆さん)によって、もう一回世界に産み出されたんだよってつぶやきが聞こえた。

こんだ 譽田亜紀子 (文筆家/「はじめての土偶」など著書多数)



発掘は可愛いものじゃない。綺麗な服などもってのほかで、時には泥にまみれたり、頭に葉が落ちてきたりもする。だからと言って本作に描かれる女性たちが輝いていないわけじゃない。それどころかピカピカに眩しくくらいに輝いているのだ。正直に言えば何度か思いがけず感動してしまっ。これはまごうことなき人生の話だった。

望月昭秀 (縄文ZINE)



2023年10月21日(土)
相模女子大学グリーンホール
(相模原市文化会館) 小田急線相模大野駅
北口 徒歩8分

16:30から
※終了後、松本監督等による
トークショーがあります!